
緑蟲

ねこたん

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緑蟲

【Nコード】

N1367F

【作者名】

ねこたん

【あらすじ】

ぼくは誰の仲間にも入れない。そう大人たちは子供達に教える。子供達もそれに納得する。ぼくは誰の仲間にも入れないのだろうか？

(前書き)

つ

ぼくは誰からも仲間に入れてもらえない。

とくに格好が汚いわけではない。

それでも皆と僕は違っていた。

ぼくは誰の仲間にも入れない。

大人たちはそう子供達に言い聞かせた。

子供達もそれに納得した。

僕は誰と仲間なのか？

そんなの分らない。

分かっているのは、自分が

どの仲間にもは入れないということ

それは孤独と言う事なのか？

自分でもよくわからない。

だれも教えてくれないから。

だから自分で考える。

僕のような種族を人によつては嫌う。

孤独って言われても

孤独って思われても

しょうがないことなのかもしれない。

それでも最近思うんだ：この孤独も悪くない と

だってそれは特別な事だからだ

ぼくは君の仲間のように動き回れる。

僕は貴方の仲間のように食べ物を得れる。

ぼくは、君たちの中間生物

孤独じゃなくて特別ななさ

きつとそうだと今は思える。

僕の名前は ミドリムシ

誰の仲間にもは入れない。

そう、誰の仲間にも入れない。

僕の名前はミドリムシ

（後書き）

いやぁー本当スミマセン。理科の授業でミドリムシが出てきて思いつきました。ミドリムシって知ってますよね？あの動き回るプランクトンのくせに（動物プランクトンのくせに）、葉緑体を持っている植物プランクトンのような生物。彼は分類が中間ですから、誰の仲間にも入れないんですよw

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1367f/>

緑蟲

2010年10月8日11時38分発行